保幼小連携合同研修会（７月 26 日Ａ参加者 80 名・27 日Ｂ参加者 82 名 大田文化の森にて）
テーマ　保幼小の円滑な接続を目指して〝言葉による伝え合い〟～子どもたちの困り感に寄り添って～

先生方が交流できるように５名ほどのグループで、２つの事例について話し合いと意見交換を行いました。事例は幼児教育センターが行っている小学校支援活動の中から、新１年生の生活の１場面をピックアップしました。

事例１　混み合う靴箱の前で、友達を押しのけて我先に靴を履き替えて行こうとする児童と、押されて泣いてしまった児童の様子について、「状況や子どもの困り感の読み取り」と「対応として考えられること」

事例２　登校時間に間に合わない児童の様々な理由を考察する。

保育士　イヤっていうことが自分で言えるかどうか、園では、いつも保育士が側でことばのやり取りは見ている。

小教師　大人の手を借りるか、自分でできるか、助けを求めるか、最終的には自分で考え行動する。

保育士　今まで積み重ねてきたことから、その子に合わせて話しかけをしている。

保育士　言葉にならない、伝えられないときは、代弁してあげる。乳児を扱っているときは「〇〇したかったのね！」とあやしながら話すことや「〇〇のことね！」と気持ちに寄り添う。日々の会話が大切だと思う。

小教師　私の学校には、トラブルが起きた時に暴言を吐く子どもがいる。

保育士　うちにもいる。「あったまきたー！」と暴言を吐く子どもに寄り添いながら、話を聞いていると、いきなり「そんなことないよ！仲直りできるもん！」と言うので、じゃあどうぞ！どうぞ！と背中を押してあげると、いつの間にか友達とにっこり笑顔になっている。いつも積み重ねだ。

幼教諭　靴箱のある場所の環境はどうか？予鈴が鳴り一斉に駆け込んで、我先に一番になろうとすることがトラブルを引き起こしたのではないか。

小教師　そうかもしれない。私の学校では予鈴の無い環境だが、徐々に時間を意識して戻れる子どもが出てくる。そろそろ教室に戻ろうと友達に伝えている姿がある。このように、先に戻ってくれば靴箱でのトラブルは起きない。半面だいぶ遅れて教室に入ってくる子どもには「分からなかった？どうしたの？」と聞く。

保育士　園では、時計の文字盤が分からなくても、例えば〝あおむしさん〟が長い針の数字の所に来たら、座って待つ。出来た子どもを褒めると「僕もできるもん」と他の子どももやって見せてくれる。（次に子どもたちの困り感について、家庭との連携が必要だが保護者の思いも様々であることが出された。）

小教師　時間の捉え方は各家庭で違う。登校時間ぎりぎりに滑り込んで来る子どもがいる。15 分前に来る子どももいる。学校は一緒に行うことがあり、遅いと皆を待たせることになってしまう。本人の問題だけではなく、いつも〝待たせちゃう子〟になってしまう。（入学当初は、スタートカリキュラムを使い、朝の時間にゆとりを持たせ、15 分刻みに時間を取り、集中できるように工夫している話が出された。）

保育士　家庭にどう話をしているのか。子どもの困り感は早めに伝えて共有することがいいのではないのか。

小教師　夏休み前の面談では学習の状況を伝えることが優先なので、５月連休明けあたりがいいかもしれない。

小教師　〝〇〇ができるようにしていきましょう〟〝連絡帳を確認していますか？〟と伝えていくことが大切だ。

研修の感想から　・保育士や幼稚園教諭は、小学校の先生方と話す機会が無く、貴重な機会で視野が広がった。・困り感は園も学校も類似している。・乳幼児期の心の成長が大切だと感じた。・付箋や模造紙を使い視える化できたのはよい。

講評　江袋指導主事より　今日の研修で大事なことは、保、幼、小、どこが共通でどこが違うかを知ることができたことではないか。例えば、水が入っているペットボトルを見て、「まだ半分ある」とも「半分しかない」とも見ることができるが、どちらが正解というわけではない。人に置き換えても立場や見方で、〝これしかできない〟から、〝これだけでもできている〟と見るこができるのが分かった。小学校でできていないように見えても幼児期には、園でその子どもの課題を意識して就学前に積み上げてきている。この研修を通して、今後このような違いを認識しながら〝保幼小の連携の大切さ〟を感じると共に多くの人に発信してほしい。

ご感想　多摩川小学校長 福地 伸先生より　10 数年前に大学院に行き、保幼小連携について学んだ。教育とは、一人前の子どもに育てる。保育とは、自立して出来るように支援していく。幼児期までに育ってほしい 10 の姿を意識しているかどうか。小学校では、35 週間カリキュラムの中で入学当初はスタートカリキュラムをうまく運用していくといいと思う。一人一人の子どもを見て、自分だったらどうするか考えてほしいと思う。今日は勉強させてもらった。ありがとうございました。